

多摩市立図書館本館再整備基本計画 概要版

□ 基本構想と敷地確定の経緯

本館・駅前拠点館・地域館のあり方を含めた全市図書館システムの再構築と、全市の図書館サービスの充実を支えつつ、高度で専門的な情報や多様な活動の場を提供する中央図書館について検討し、平成29年3月に基本構想がまとめられた。

新たな整備予定地は、多摩中央公園内北西のレンガ坂に近い土地が適地として提示された。

□ 基本計画検討委員会経緯

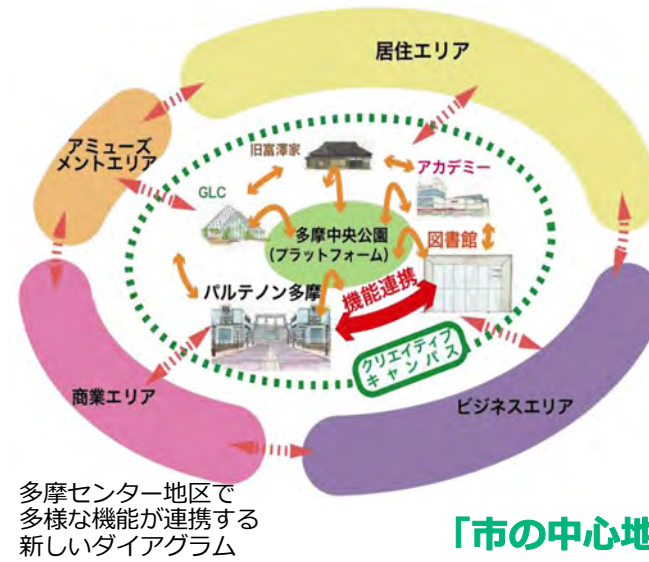
基本計画検討委員会は、毎回多数市民の傍聴をいただき、2/18、3/11、3/24、4/21、5/13、5/27、6/9、8/4、の8回開催され、別途研究会の協議を経て、基本計画の原案をまとめた。

□ 市民フォーラム

6月30日午後7:00から、永山公民館ベルブホールで「多摩市立図書館本館再整備市民フォーラム」。常世田良委員長らの講演、基本計画案の説明。

□ パブリックコメント

基本計画案は平成30年6月27日から7月26日まで市ホームページや各図書館などで公開された。第8回検討委員会で結果が報告され、基本計画原案に反映修正がされた。基本計画資料編に記録をする。



多摩センター地区で多様な機能が連携する新しいダイアグラム

「知の地域創造」のための図書館

- 全域ネットワーク。地域の情報支援インフラ。
 - 学校図書館と連携しつつ地域社会とつながる。
 - 地域資料で行政・議会支援。地方自治を支える。
- 「知の地域創造」として〈地域社会を支える〉**

- 多摩中央公園の環境にひらかれ、市民活動とつながる。
 - パルテノン多摩と、施設・機能・事業がつながる。
 - 知的活動、環境、市民活動の広場。
- 「市の中心地での連携」として〈まちにひらく／まちにつながる〉**

「市の中心地での連携」として〈まちにひらく／まちにつながる〉

- 「市民の『知る』を支援する」基本方針により、市民一人ひとりから支える。
 - 地域課題の解決支援、個人の自立化支援、地域の教育力向上支援。
 - 学びと交流の機能を活かした生涯学習の場となる。
- 「市民一人ひとりから支える」として〈課題解決型の支援をめざす〉**

「市民一人ひとりから支える」として〈課題解決型の支援をめざす〉

多摩市の図書館をめざすもの

○中央図書館をつくる、なんのために、どうつくるのか。

◎ 多摩市立図書館のいま

● 「はたらき」のいま

- ◎ 市民ひとり当たり貸出数 11.4冊の成果を上げつつけている。
- △ 登録率が上昇しない。特に、若者や働く世代への働きかけが不十分だ。
- △ リクエスト数は、複本の少なさと資料が全市に分散している結果と判る。
- △ 団体貸出バックヤード機能や専門的サービスを進める中央館機能が弱い。

● 「資料世界」のいま

- ◎ 一定の図書館歳費を投資し、73.7万冊という図書資料をストック
- △ 日協協「公立図書館の任務と目標」の、年間資料費、受け入れ冊数が少ない。
- △ 本の所在が定められておらず開架の資料表現を企図した選書ではない。
- △ 中央館も分館も開架が書庫化、新鮮な資料表情、ブラウジングの魅力が弱い。

● 「職員体制」のいま

- ◎ 1973年創設以来、正職専門職員による運営がされてきた。
- △ 正規職員が減少し新採用少なく、体制編成が難しい。体制の方針見直しを
- △ 人件費割合が上昇し、資料費比率を圧迫している。総人件費圧縮が課題
- △ 分館運営最前線に常勤館長がいない。分館の開架の魅力改善に人手がない。

● 「施設環境」のいま

- ◎ 本館分館全ての床面積の総和は日協協「公立図書館の任務と目標」を満足
- △ 校舎利用の本館は、開架も書庫収容冊数も少なく分館資料を引き受けず。
- △ 分館の開架が本館書庫機能を補完し、動かない本が活気/魅力を減じている。
- △ 分館の書棚から旧刊を出して新刊を入れる活性化を本館が出来ていない。

◎ 中央図書館による全体の機能刷新

1. 多摩市立図書館サービス網の中核機能 (図書館システムの職員育成拠点機関)

- ・ 機能的業務環境と魅力的資料配置
- ・ スピーディなリクエスト対応
- ・ 学校支援の協働プラットフォーム
- ・ 職員の人材育成と、専門性の継承

2. 豊富な資料群による市民への 専門的総合的な直接サービス機能

- ・ ワンストップで圧倒的本に出会える。
- ・ 滞在型の利用。魅力的ブラウジングの資料と場
- ・ 専門的で総合的なレファレンスサービス

3. 新しいメディアを用いた 課題解決支援型図書館の機能

- ・ サービスの刷新と多様化(省力化/機械化)
- ・ ICT対応の資料と利用環境の充実
- ・ 人工知能、ロボット、メーカーズスペース

4. 多様な出会いの創出、市民活動の機会と場の提供

- ・ 本・情報、もの、ひとに出会い、自分を確かめ、主体的に地域で活動する市民を支援
- ・ 資料に囲まれて、交流・研究・ICT環境・自由な創作の場、ラーニングコモンズ

5. 全市全館開架資料の活性化と 長年読み継がれる本の保存機能

- ・ 分散し動かない本を利用される場所へ集約、創出されたスペースに新刊配置や活動の場を。
- ・ より多く、長く、市民財産/図書資料を保存する。

6. パルテノン多摩との連携と機能分担

- ・ 図書館独自の機能やサービスから生まれる市民活動に対して、場と設備を提供する。
- ・ 公民館的交流機能は重複した整備を避け、双方の利用連携でコスト削減に努める。

これからの図書館

～「知の地域創造」に向けた図書館へ～



単に本を貸し出すだけの場ではなく、様々な催しや講座、他の機能との連携の中から、新たな学び、楽しみ、人と人とのつながりが生まれる、そんな図書館をめざします。

新しい中央図書館の基本計画

資料計画

- **蔵書の本籍（配置館）の固定化**
 - ・所蔵館が固定されておらず、返却時に分散され配架表現できていない。各館の役割に応じた蔵書構成とするため、配置館を固定する。
- **中央図書館専門化への資料集約と、地域館・拠点館の魅力化**
 - ・書庫代わりも含め、各分館に蔵書が分散し、棚の魅力減退。拠点館・地域館から専門的な本、動かない本を、中央館に集約。地域館には、基本的な本、新しく身近な本を置いて魅力化。
- **地域資料の充実、ICT環境の整備、課題解決のための資料収集**
 - ・地域資料、インターネット環境やオンライン・データベースなどを含めて充実。
 - ・その他、資料の充実により、多様な課題解決を支える。

→ **中央図書館の開架25→30万冊、
閉架書庫30万冊(増設性)を想定する。**

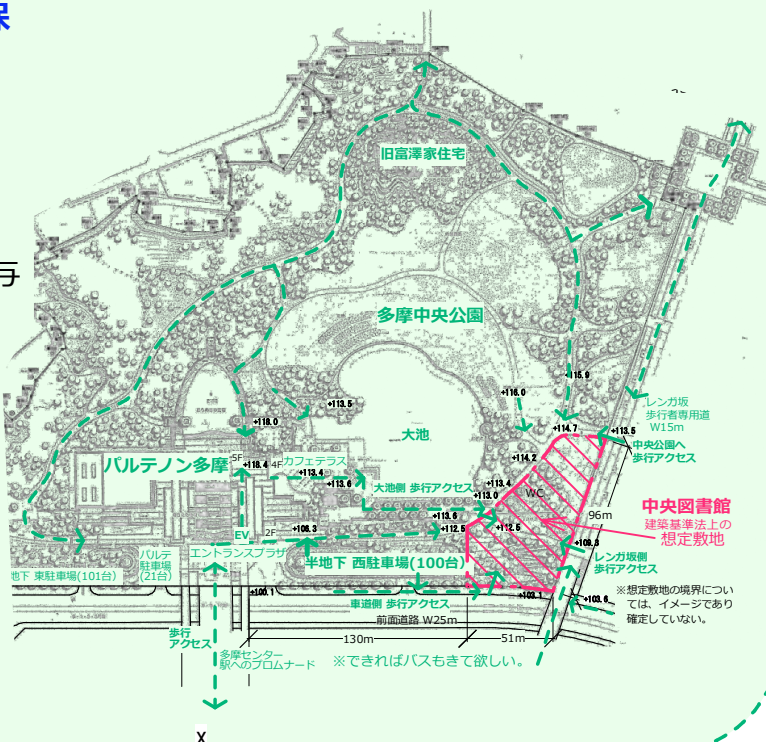
運営と管理計画

- **サービス時間の見直し（市民利用の拡大、持続可能な運営）**
 - 休館日見直しで、全体の開館日確保と、内部業務の時間創出。駅前拠点館の立地を活用し、業務を絞り込んで時間延長を。
- **ICT活用による図書館業務の省力化・専門化**
 - ICタグ導入により、窓口業務の効率化とセルフサービス化。創出した時間を、相談業務、事業企画など専門分野へ。
- **運営体制の基本と職員の育成**
 - 図書館運営の根幹部分は直営。職員の役割分担も整理。中央館が全館を支え、職員育成の拠点となる。
- **市民活動との連携／ボランティアの活動を支援し協働する。**

○その他、運営と管理について留意したいこと
・利用者や職員の安全体制や危機管理。・警備員巡回やパトロールに配慮して監視カメラなど。

敷地計画

- **多摩ニュータウン造成による傾斜地を活かしつつ平面を確保**
 - ・多摩市立図書館ネットワークの中心館
 - ・機能的合理的な施設計画を目指す
- **ひと動線とつながり、周辺環境にひらかれた施設**
 - ・多摩ニュータウン中核都市の中心
 - ・多様な出会いとにぎわい創出のまちづくりに寄与
- **周辺とのネットワークを活かした「知の地域創造」**
 - ・多摩中央公園を囲み、パルテノン多摩とも連携
 - ・重複投資を避け、役割分担と相乗効果
- **公園の緑環境と魅力的景観に積極的参加**
 - ・多摩中央公園の設計コンセプト、シンボルパーク・景観に留意
 - ・低層建築化、施設緑化など、公園に調和



施設計画

- **計画の優先順位：** ①充実した開架、②交流できる広場、③「バックヤード」の充実
- **収容力と施設規模：** ①開架25→30万冊、②閉架書庫30万冊(増設検討)、③建築 5,500㎡
- **開架のしつらえ：** ①楽しい広場系開架室、②落ち着いた静寂系開架室、③座席500席、
- **面積配分のめやす：**
広場系開架+市民活動支援：34%、静寂系開架：33%、書庫：8%、運営と管理部門：13%、共用部：12%
- **設計段階でさらに検討：**
 - ・環境、みどり、自然・省エネルギー
 - ・長寿命、フレキシビリティ
 - ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン
 - ・ライフサイクルコストの低減

基本計画の具体化に向けて

- 基本計画を基に、サービスや運営体制を、さらに詳細な実施計画で整理する。
- 新館用資料の準備と ICT活用に向けた詳細な検討をする。
- 設計・建設に向け行政全体で、推進体制の整備をはかる。
- 最適な図書館設計者を選ぶ。
- 市民と行政が共感できる図書館サービスの条例/規則を作る。
- 図書館協議会による「市民が主役のまちづくり」にふさわしい図書館運営を具体化する。
- 図書館友の会、図書館ボランティアなど、図書館サービスを市民とともに考え推進する。

□中央図書館整備のスケジュール（案）

H28	基本構想策定		
H29 2017	基本計画 内部検討	基本計画 補正予算	
H30 2018	基本計画 設計プロ ポザル	設計 補正予算	
H31 2019	基本設計 実施設計	敷地測量 地盤調査	
H32 2020	申請 契約準備 入札	建築契約 議決	資料選定 発注
H33 2021	建築 工事		
H34 2022	開館 準備		

□想定事業費

設計・監理	(税込み) 約4,468百万円
本体工事、諸工事	
備品、移転費ほか	

多摩市立図書館本館 再整備基本計画概要版

平成30年8月 基本計画検討委員会
多摩市教育委員会
／事務局 多摩市立図書館